

大子町における小規模事業者の

景況調査報告

平成 29 年 1 月～

令和 2 年 12 月

大子町商工会

目的：

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

方法：

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～令和 3 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、年 2 回報告する。

対象事業者：

大子町にて事業を行っている小規模事業者

調査項目：

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感について前年度同時期と比較した。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響が、大子町の中小企業者にどの程度影響したかを調査した。
- ③ 大子町で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6社
建設関連業	6社
小売業（卸売業を含む）	9社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

事業者の規模

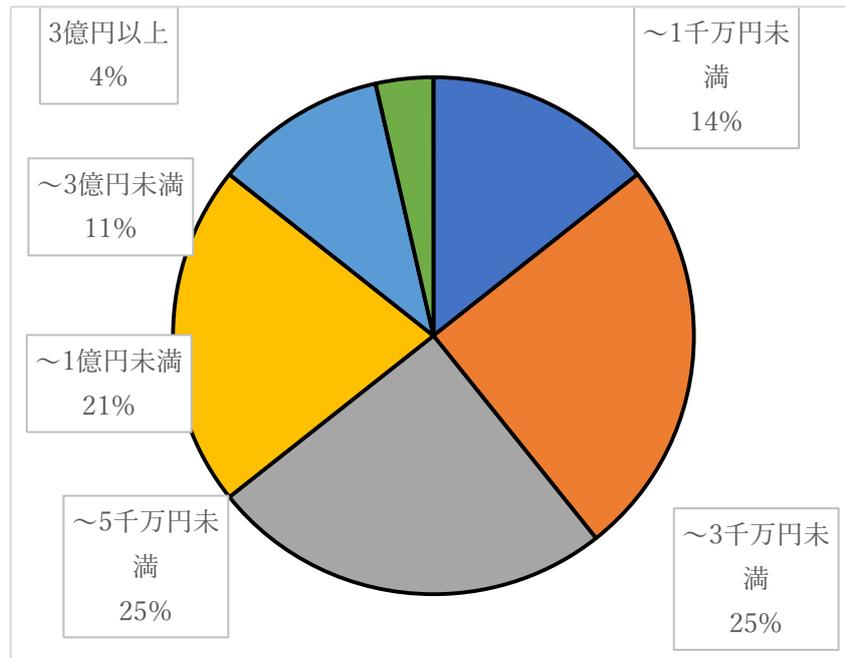


図1 売上規模による事業者の調査割合

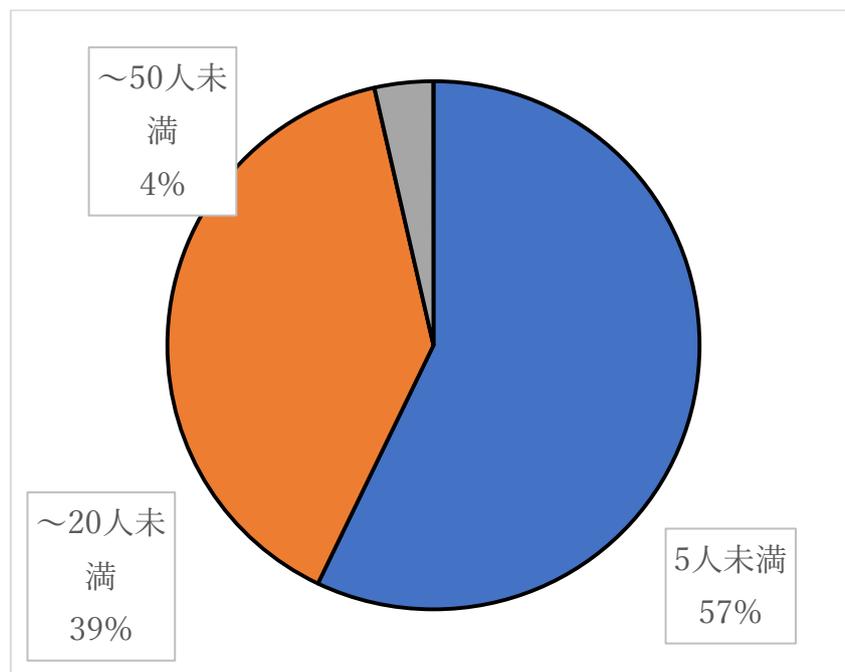


図2 従業員規模による事業者の割合

1. 直近のDIについて

大子町では、令和元年に入ってから、産業全体に不景気懸念が強くなりました。さらに追い打ちをかけるように、令和1年10月の台風19号の被災に加えて、令和2年当初からの新型コロナウイルス感染症の影響から、不景気感がさらに強くなりました。

そのような中で、建設関連業は健全な動きを示しています。売上高、粗利益ともに前年水準が維持できており、そのため、景況感も特に問題がありません。反面、小売業およびサービス業が新型コロナウイルス感染症の影響のために低迷が続いています。二つの業種ともに、販売単価が下がっている傾向が強いようです。新型コロナウイルス感染症の影響で直接的に価格が下がったというよりも、間接的な売り急ぎのために価格を下げているように感じます。

表1 令和2年10月～12月間のDI※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感
製造業 (食品加工含む)	▲ 83.3	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7
建設関連業	0.0	▲ 16.7	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0
小売業 (卸売業含む)	▲ 75.0	▲ 50.0	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 75.0
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 80.0
全業種計	▲ 58.6	▲ 31.0	▲ 41.4	▲ 27.6	▲ 20.7	▲ 62.1

※1 DI (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のD I の推移を以下に示します。

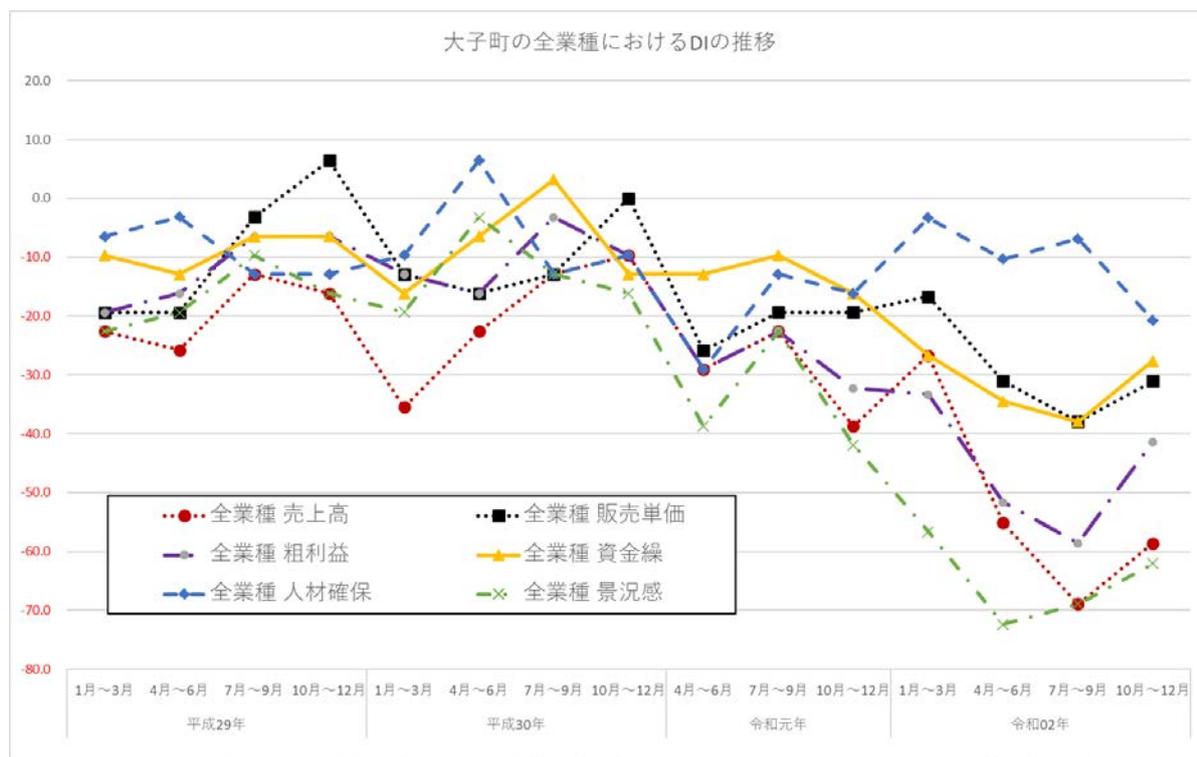


図1 大子町の全業種におけるD I の推移

図1は、大子町における全業種のD I 値の推移を示したものです。今回の調査では、人材確保の項目を除くすべての指標が十分とは言い難いですが戻ってきています。少しだけ明るい兆しも見えてきているようにも感じられます（令和2年12月時点）。

図2は、業種別における売上高D I の推移を示したものです。堅調なのは建設関連業で、最も低迷を感じている業種は製造業であると言えます。ただし、小売業は右肩下がりが続いており、今後の行方が懸念されます。価格低下を基本として売り込み（戦略は避けるべきではないか）と思います。

図3は、販売単価のD I の推移を示したものです。平成29年～30年にかけてすべての業種で販売単価の上昇がみられましたが、コロナ禍になり、サービス業および小売業が値下げの傾向が強くなっているようです。大子町での販売協力金は経済を活性化させるためには、良い取り組みであると思いますが、不要な値下げを引き起こす要因の一つになりはしないかと疑問も感じます。

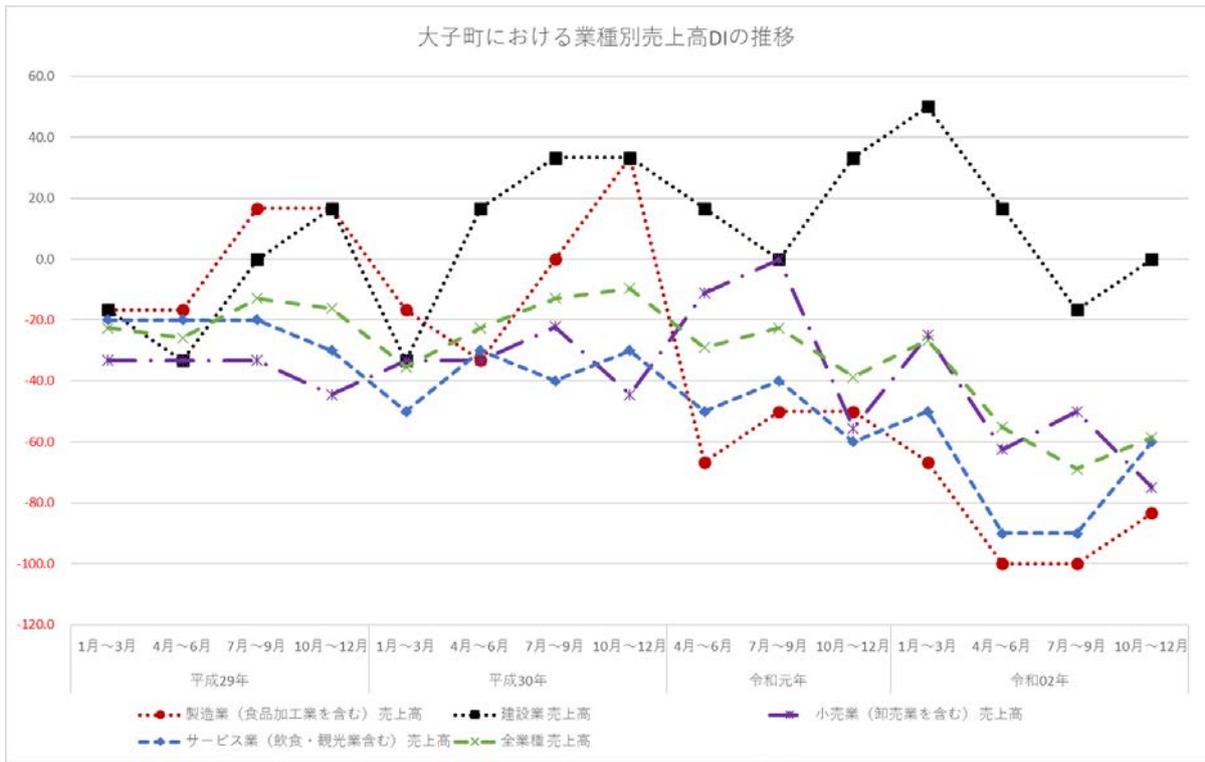


図2 大子町における業種別売上DIの推移

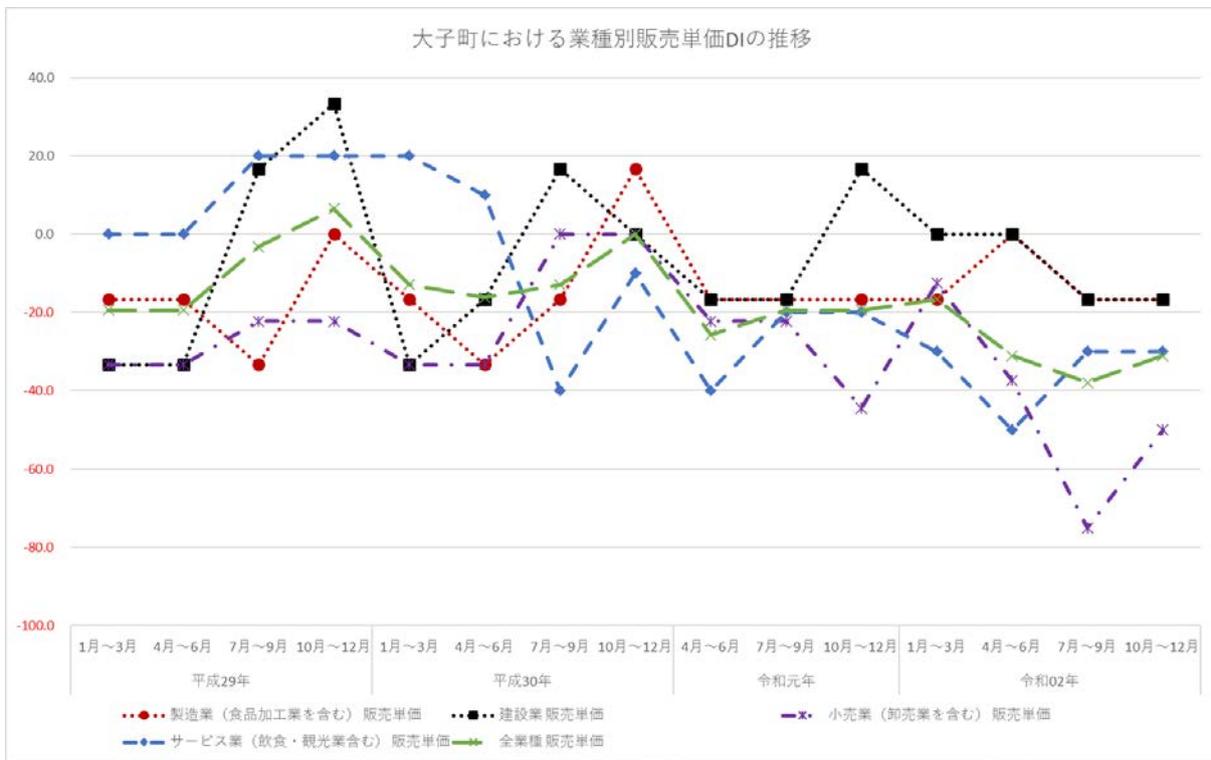


図3 大子町における業種別販売単価DIの推移

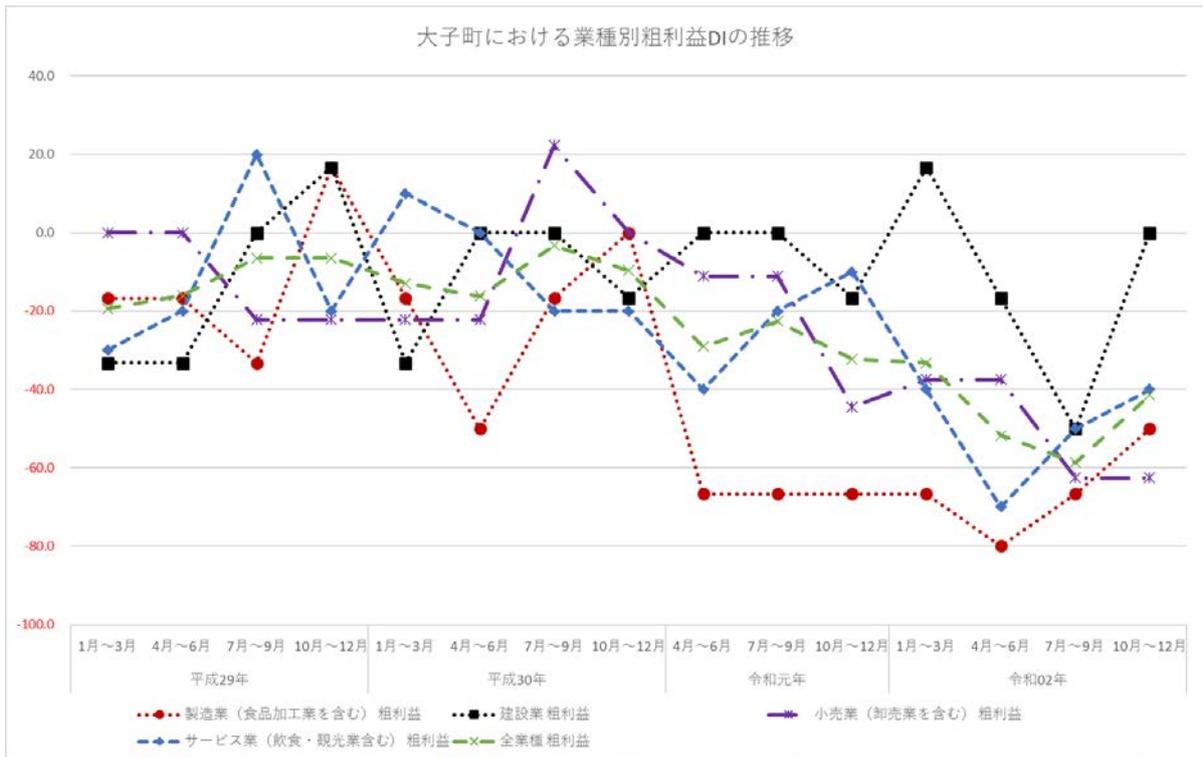


図4 大子町における業種別粗利益DIの推移

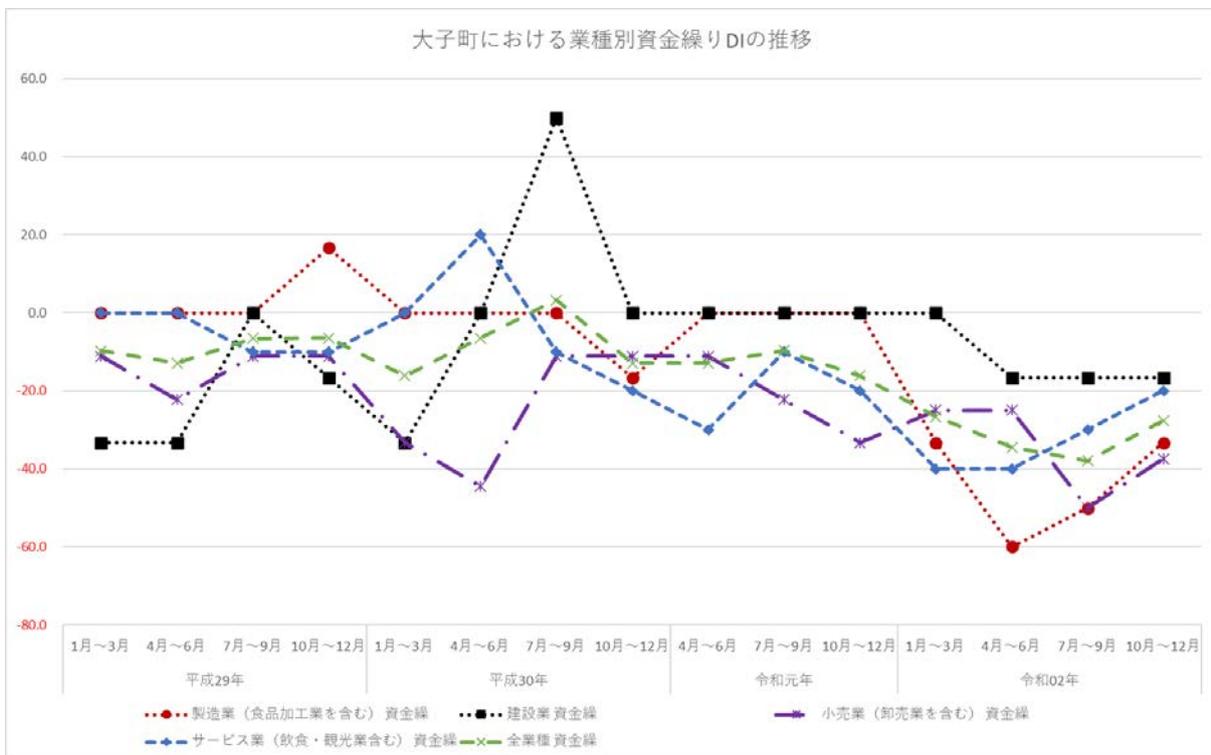


図5 大子町における業種別資金繰りDIの推移

図4は、業種別の粗利益D Iを示しています。令和1年の中国とアメリカの貿易戦争後に製造業が打撃を受けたようですが、コロナ禍でも回復の傾向がみられています。小売業は下げ止まる気配が見えませんが、サービス業では一部回復している事業者も現れています。特にG o T o トラベルの時期には、過去最高売上を記録した飲食店も現れました。G o T o トラベルには、コロナウイルス感染症の拡大とは別に、経済面としては相応の評価ができると思います。

図5は、業種別の資金繰りのD Iを示したのもので。新型コロナウイルス感染症の影響により売上の低下や販売価格の低下などが起こりましたが、資金繰りに関してはそれほど下がっていないことがわかります。給付金・協力金や、金融政策などといった公的な支援策が功を奏していると思われます。ただし、損失補填への借入は注意をようすることは言うまでもありません。

図6は人材確保のD Iを示したものです。失業率とも関係しますが、景気が良くなると人材不足がおこり、景気が悪くなると人材過剰が起こります。そのような意味で令和2年の第4四半期は景気が良くなった（≒人材不足が増えた≒失業者が減った）とも言えます。

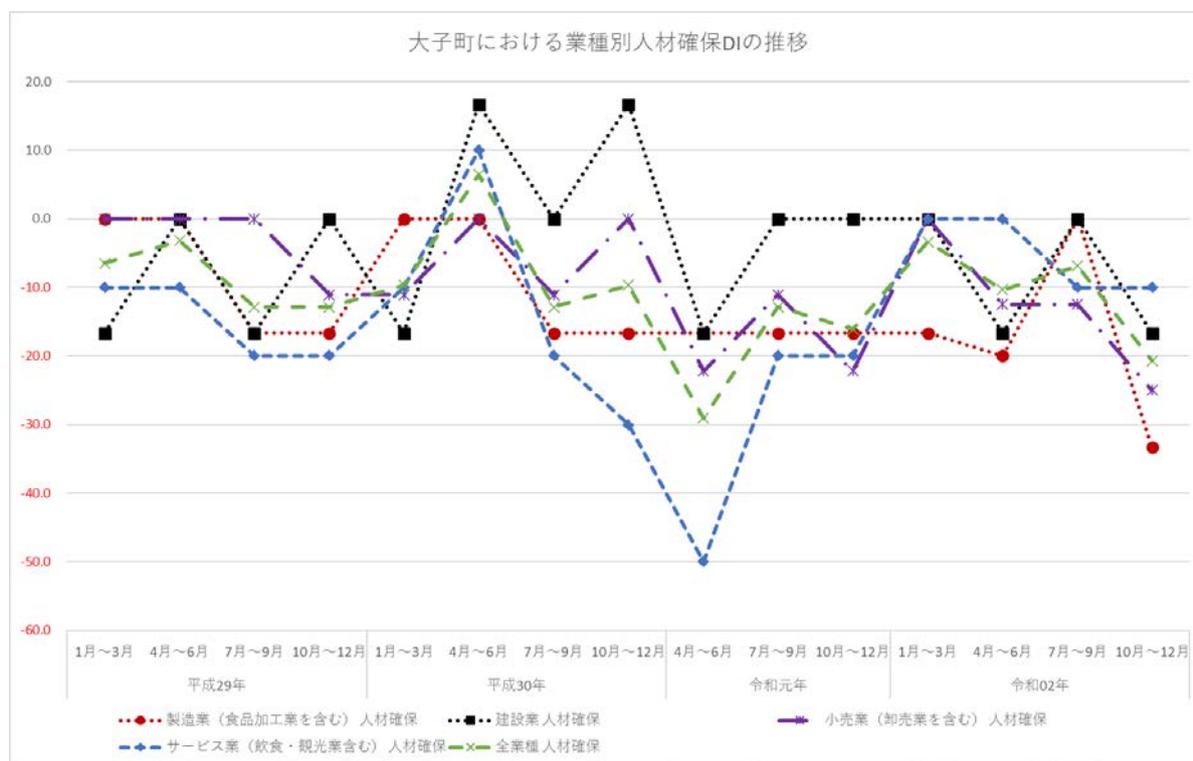


図6 大子町における人材確保D I の推移

図7は、景況感のD Iを示したものです。建設関連業を除く多くの企業は、新型コロナウイルス感染症の影響により景況感が大きく下がり、4月から9月が底であったようです。下期の10月から12月にかけては、景気の回復傾向がみられるようになりました。建設関連業者と製造業者の違いは、建設業は国内需要、製造業者国外需要の差が大きく表れた結果であると感じます。

また、サービス業や小売業者にとっては、特に大子町は観光地である視点からも、他地域からの来訪者増減が景気の良悪に影響することは容易にうかがえます。そのような意味でも回復の兆しが見えてきたように思えます。

資料上は回復の兆しが見えてきていますが、令和3年に入ってから自粛要請、オリンピックの海外観客の禁止、ワクチン接種の遅れなど、まだまだ将来の不透明感は続いているかと思えます。

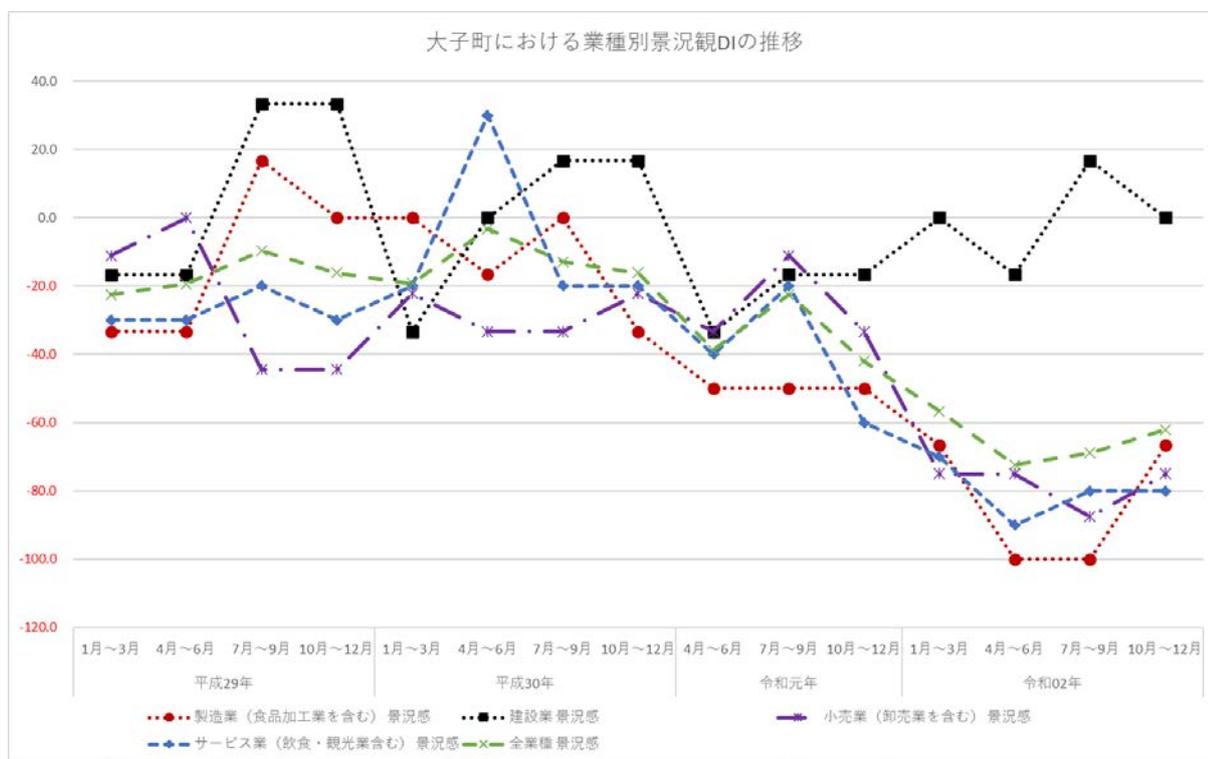


図7 大子町における景況感D I の推移

2. 新型コロナウイルス感染症の影響

図8では、新型コロナウイルス感染症の経営への影響をまとめました。本年1月～3月にかけては影響があまりなかった事業者もありました。しかし後半にかけて売上の減少、資金繰りの悪化、材料入手の困難などが目立つようになりました。業種によっては、材料の仕入が困難というのが初めのころはありましたが、それも落ち着いてきたようです。

一時期資金繰りの悪化が増えたように見えますが、それらも落ち着いてきているようです。金融政策が手厚くなっていることが伺えます。

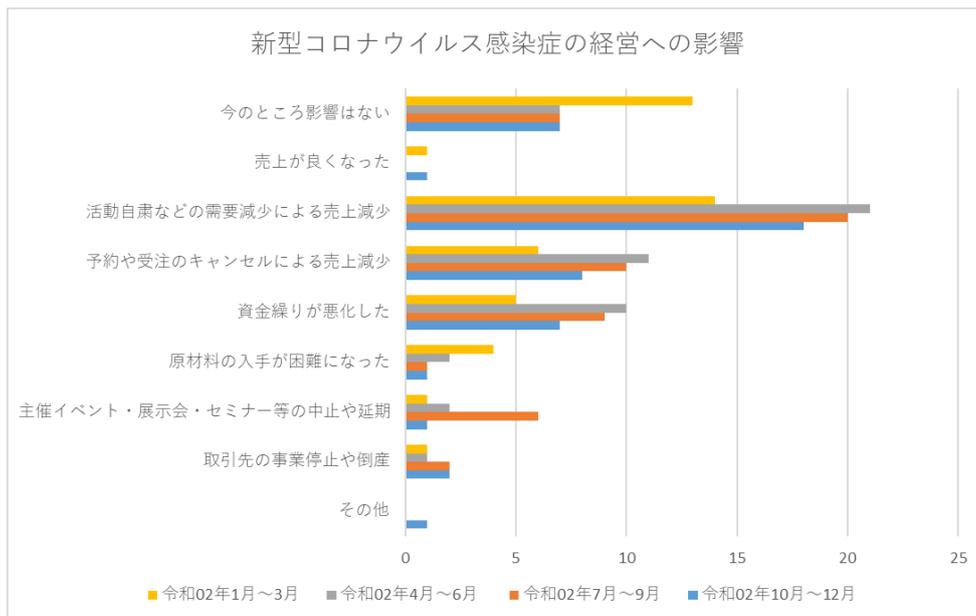


図8 新型コロナウイルス感染症の経営への影響

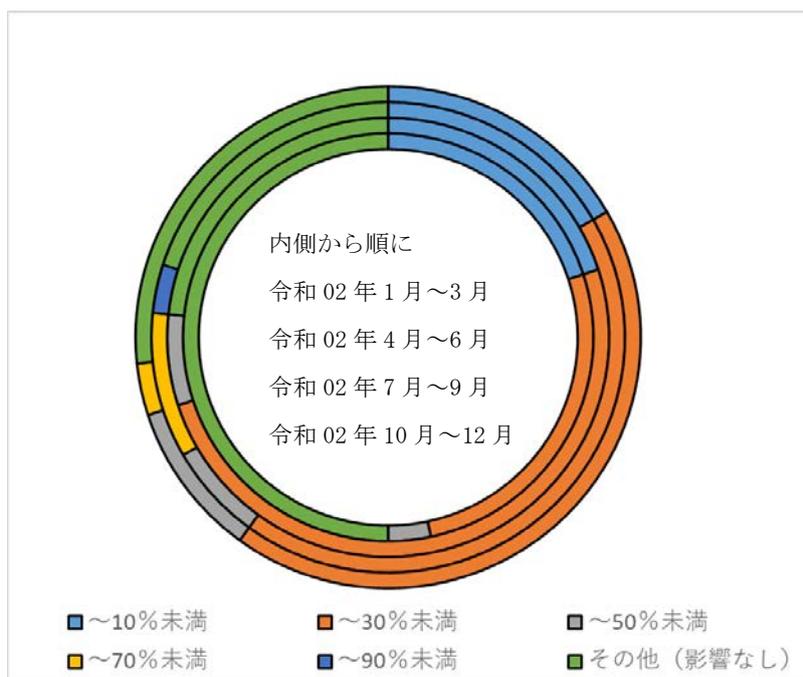


図9 売上低下の状況

図9においては、新型コロナウイルス感染症影響によりどの程度売上が低下したかをまとめました。総売上が50%以下の事業者も3割程見られますが、全体的には総売上の7割程度で推移しているのではないかと推測しています。

図10では、新型コロナウイルス感染症の影響をどのように対策をしているかをまとめました。4月を過ぎてから、給付金・助成金・補助金などの申請や融資申し込みなどが顕著になり現在は落ち着いてきました。また、10月を過ぎてから、条件変更、固定費削減、経営相談といった経営の不安に対する要望が増えてきているようです。

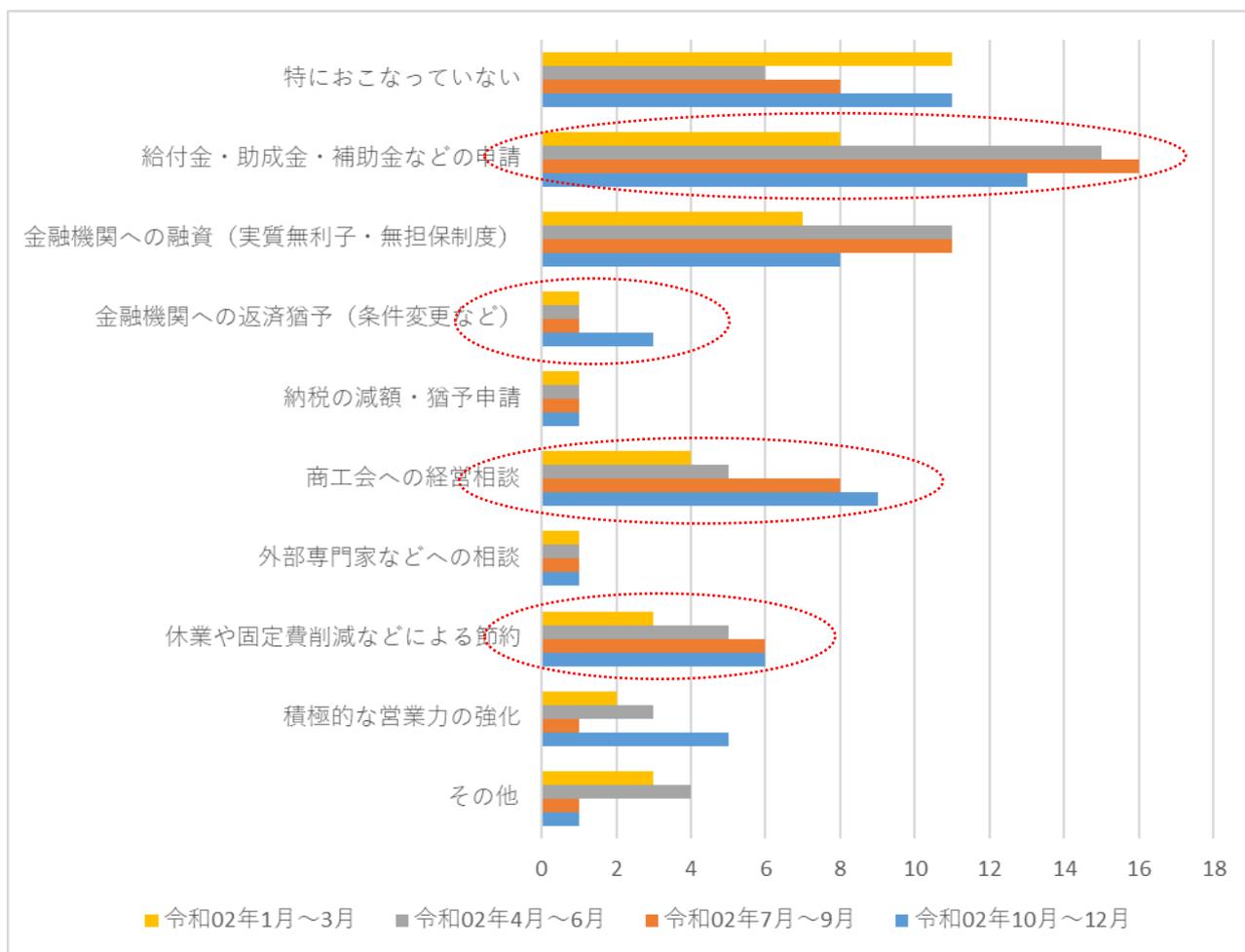


図10 新型コロナウイルス感染症の影響による対策

3. 小規模事業者の課題意識について

コロナ禍も1年以上が経過し、経営者の経営課題意識が半年前とは大きく変わりました。売上の低下・需要の低下に対して従業員を確保するように意識が変わってきています。

仕入値が低下傾向にあるなかで、ある意味ビジネスチャンスととらえることもできる事業者が現れ始めたのか？とも想像できます。また、無利息・無担保で長期借入ができる今こそ新たな設備投資のチャンスであると考え人も現れているのではないかと想像しています（設備の老朽化を気にする人が増えている）。

新たな事業への取組も大切な時期に入ってきたのかもしれない。

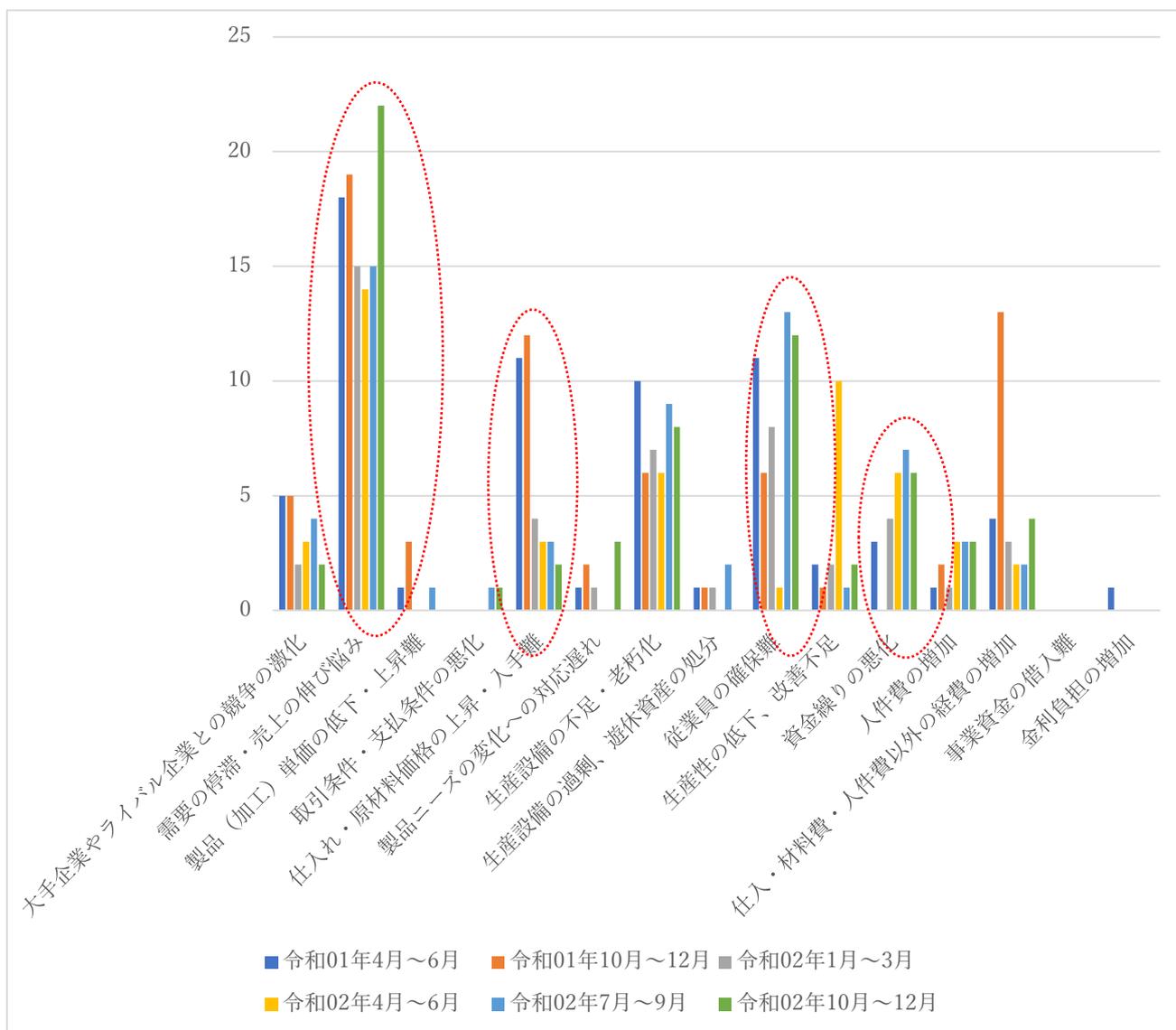


図 12 大子町における小規模事業者の課題意識